



EU考古学情報基盤ARIADNEと 全国遺跡報告総覧の連携に向けて

2017年2月、イギリスのヨーク大学考古学情報サービス (Archaeology Data Service。以下、ADS) にて、考古学情報の国際発信に関するセミナーが開催されました。セミナーでは、考古学情報を国際的に共有し連携するための具体的な方法について議論しました。日本側のテーマとして全国遺跡報告総覧を主軸に議論を進行しました。全国遺跡報告総覧は、大量のデータを保持していること・膨大な利用実績があることが大きな驚きを与えたようです。意見交換において、ADSの Julian Richards教授からARIADNEを介した考古学情報の日欧でのデータ連携が提案され、現在その準備を進めています。

ARIADNEは、多国間での考古学情報を統合し、相互連携によって多くの人が情報にアクセスしやすくするシステムの構築、コミュニティの組成に取り組んでいる事業です。イタリア、イギリス等の国々、23の機関が参画しています。ARIADNEでは、遺跡の位置情報、時間情報、調査成果のリポジトリをポータルサイトにて統合しています。詳細情報を確認する際には、各国機関の専門データベースで確認することができます。情報集約をはかりユーザの利便性を確保しつつ、



ARIADNEトップページ

情報をそれぞれの機関の責任において作成・公開する分散型の枠組がうまく機能しています。またヨーロッパ内では多様な言語が使われていますが、「multilingual cross search」機能が搭載されており、用語の各国言語の対訳変換を実現しています。まさに国境や言葉の壁を超えた検索が可能となっています。

ARIADNEは、European Commissionから資金援助を受け事業推進されました。この次期計画として、ARIADNE plusが2019年3月から開始する予定です。ARIADNE plusでは、より多数の国・機関が参画する見込みであり、ヨーロッパ以外の国 (アメリカ・日本・アルゼンチン) が初めて事業に参画します。本計画では、15のWork Programにテーマが細分され、様々な課題について議論されます。この多数の機関・国々が参加するARIADNE plusのスキームにおいて、日本が参画するメリットは多大です。それは、日本が得意とする分野について海外に発信し還元することで、この事業に貢献することができます。また、日本考古学の成果を世界に発信する基盤として有効に作用するとともに、各国のもつ考古学情報基盤やデジタル技術の実践例について、強み／弱みを相互補完することで、学界全体の底上げにつながると期待されます。

(企画調整部 高田 祐一・小沼 美結)

ARIADNE <http://www.ariadne-infrastructure.eu/>

全国遺跡報告総覧 <http://sitereports.nabunken.go.jp>



Julian Richards教授 (ADS) との協議
(2018年2月27日 ヨーク大学にて)